

# 高知県教育委員会における 中学校武道必修化の取組

高知県教育委員会事務局  
スポーツ健康教育課

高知県教育委員会として、武道必修化に伴い、各学校における指導体制の確立に向けて、関係団体と連携しながら取り組んできた実践概要を紹介する。

各学校の実態を把握し、県全体の状況を踏まえ、文部科学省委託事業に取り組むとともに、教育研修センター主催の「子供の体力向上指導者養成研修」と連携を図りながら、学習指導要領に沿った指導と評価の実践に向けて、指導力の向上に取り組んでいる。



坂本龍馬像

## 1 高知県の武道指導の実態

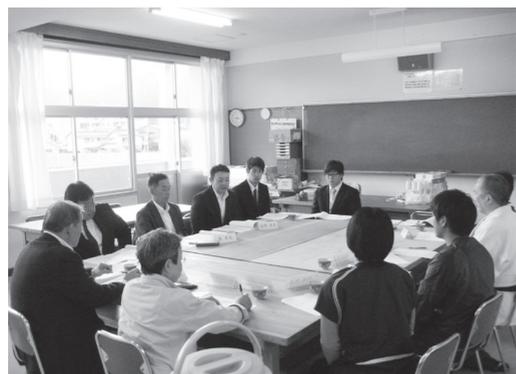
平成24年度からの中学校保健体育における武道必修化に際して、県内公立中学校（県立校3校を含む114校、平成23年11月現在）を対象に行った事前調査<sup>①</sup>では、平成24年度からの実施種目は、柔道22校、剣道71校、相撲24校という状況（複数種目実施校3校を含む）であったが、実施場所を武道場としている学校は柔道、剣道、相撲の3種目を合わせて20校で、全体の17・5%であった。

県内公立中学校の武道場の設置率<sup>②</sup>は全体の18%で、武道場で授業を行うことが困難な学校が大半を占めている。全体として、体育館で実施する学校が多く、柔道や相撲については、体育館に畳や専用のマット、器械運動用のマット等を設置して行うため、特に安全面についての配慮が必要である。

表1 武道場設置状況（平成26年5月1日現在）

学校数	柔剣道場	柔道場	剣道場	相撲場
22	9	4	6	4

※ 複数設置1校



指導推進委員会（実践校視察）

## 2 武道必修化における 教育委員会の取組

保<sup>①</sup>等の研修を通じて、教員の指導力を高めるとともに、地域の指導者を活用することで、本県の武道授業の充実を図っている。

### 1 武道等指導推進事業

平成24年度から3年間、文部科学省委託事業である武道等指導推進事業を活用し、武道授業の充実に向けて取り組んできた。以下、平成26年度の取組を紹介する。

#### ①指導推進委員会の設置

県柔道協会、県剣道連盟、県相撲連盟、大学、県中学校体育連盟、学校現場の代表者等で構成する武道等指導推進委員会を設置し、事業を実施する上での課題や武道の安全に配慮した指導内容及び地域の指導者等の活用の在り方についての協議を行い、本県の武道指導の充実を図った。

本年度は外部指導者派遣事業実践校の視察を行い、授業者と地域の指導者の連携等、授業の在り方について幅広く意見が出された。

また、県柔道協会及び県剣道連盟においては、授業協力者養成講習会を開催するなど、要請に応じ



外部指導者派遣事業（柔道）



外部指導者派遣事業（剣道）

③外部指導者派遣事業の実施  
 武道必修化に対して、教員の指導力向上を図るために、県教育委員会が地域の外部指導者を派遣

た適切な人材が派遣できる支援体制を整え、県教育委員会との連携を深めていくことを確認した。

②武道指導者講習会の開催  
 毎年、夏期休業中に柔道、剣道、相撲の各競技団体に講師を依頼し、主に指導経験の少ない教員を対象に、安全面に配慮した指導方法を中心とした講習を行ってきた。

本年度は武道必修化3年目を迎えて、「基本動作から発展的な授業実践に向けて」をテーマとして、柔道は高知県柔道協会理事長の門田幸延氏、相撲は日本相撲連盟推薦の堀内弥教論、廣瀬理奈教論を講師に迎えて開催した。（剣道については、平成26年度は教育研修センター主催の「子供の体力向上指導者養成研修」の伝達講習をそれに代えて実施した。）

表2 平成26年度武道指導者講習会実績

種目	実施日	受講者数	会場
柔道	8月7日	13名	高知県立武道館
相撲	8月28日	11名	

し、安全に配慮した指導内容の在り方や外部指導者の活用方策の在り方等について実践的研究を行ない、今後の指導の充実に図る目的で行ってきた。本年度は柔道3校、剣道3校で実施した。

2 子供の体力向上指導者養成研修の伝達講習  
 5月に福岡市で開催された「子供の体力向上指導者養成研修」を受講した講師（県から推薦を受けた教員）が、新しい教育課程に沿った授業実践の在り方について8月に体育実技指導者講習会として伝達講習を行った。

例年、本研修の武道については、柔道、または剣道を隔年で実施しており、本年度は剣道が行われた。本講習を通じて武道（剣道）の授業を安全かつ円滑に行うことができるように講義及び実技による研修を行い、教員の資質向上とともに指導者の育成を図った。

表3 平成26年度体育実技指導者講習会実績

種目	実施日	受講者数	会場
剣道	8月27日	9名	高知県立武道館



体育実技指導者講習会（剣道）



武道指導者講習会（柔道）



武道指導者講習会（相撲）



### 3 成果と課題

指導推進委員会を通じて、武道の安全に配慮した指導内容及び地域の指導者等の活用の在り方についての協議を進めたことにより、地域の指導者の活用について、柔道、剣道の両競技団体の支援体制との連携を深めることができ、今後の外部指導者の活用について大きな成果となった。

実施状況についての調査(4)においても、授業を実施するに当たり、地域人材の活用への要望(22校)は多い。

しかし、本年度県教育委員会による外部指導者派遣事業実践校は少なく、効果的な派遣ができるように校長会、体育主任会、教科等担当指導主事会等での広報等、周知徹底を図っていく必要がある。

指導者講習会を通じては、安全面に十分に配慮した内容で、学習

### 4 おわりに

平成24年度から中学校の保健体育において武道が必修となり3年が経過しようとしているが、既存の施設に恵まれない中、大きな混乱もなく武道授業の実践が進められていくことは、講習会と併せて、市町村教育委員会、県中学校体育連盟研究会等で武道必修化に向けて準備を進めてきた成果である。

各競技団体からは実技講習会をはじめとして、様々な場面においてご協力いただいたことに大変感謝している。

今後も安全で効果的な指導方法の確立、発展的な実践に向けての専門的な指導力の育成、授業協力者としての外部指導者との連携等、県教育委員会として教育効果の高い武道授業のさらなる充実に向けて、継続的に効果的な取組を

行っていくきたい。

注

(1) 高知県教育委員会(2010) 平成24年度の保健体育科における「武道」の計画について

(2) 高知県教育委員会(2014) 学校体育施設設置等状況調査

(3) 高知県中学校体育連盟研究委員会(2012) 武道に関する実態調査

(4) 高知県教育委員会(2014) 武道及びダンスの必修化を踏まえた公立中学校の実施状況について

## 好評発売中

脳生理学者・医師  
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

# 脳を活性化させる

## 武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経—その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが  
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。

#### 主な内容

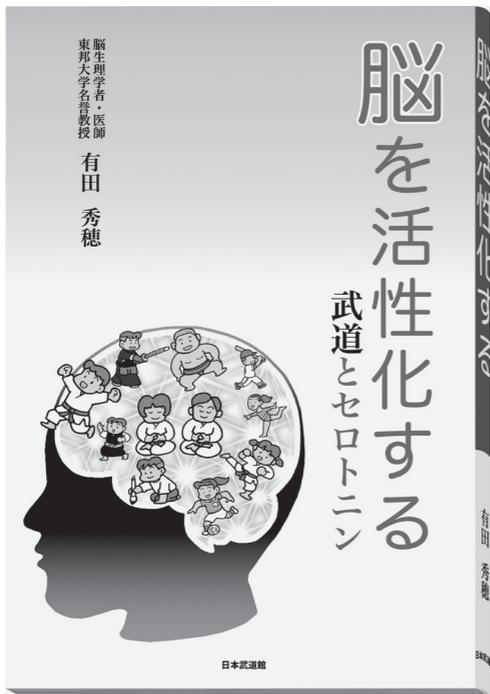
##### 第1部 脳の活性化とは

- 坐禅とセロトニン
- ストレスとしごき
- 空海はセロトニン活性の達人
- 『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング
- 沢庵の「不動智」とワーキングメモリー
- 不動明王と心の三原色
- 『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識
- 悪夢を消すには?
- 精進料理とセロトニン合成
- 「茶の湯」とセロトニンの生活
- 「自然に体が動いた」を脳科学で解く
- 勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する
- 「武道の礼法」は社会脳を育む
- 相撲の「四股」は品性を育む
- 書道も心技体の人間修行
- アンドロゲンと闘争心
- 日本の祭にはセロトニンがたっぷり
- スキンシップとオキシトシン
- 空手の稽古は坐禅修行に通じる
- 脳は「丹田呼吸法」をどう操るか
- 試合における最適な覚醒状態
- サイエンスは「気」をどこまで解明したか
- 仙人術を脳科学する

##### 第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光  
東邦大学名誉教授 有田 秀穂

…他



A5判・並製・346頁・1600円+税



有田 秀穂  
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課  
までどうぞ!

TEL03(3216)5147  
FAX03(3216)5158